

柿田 喜則



PROFILE

柿田 喜則（かきた よしのり）

- 1969年 京都府生まれ
- 1995年 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
- 2001年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学博士課程満期退学（修士）
- 2001年～2006年 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学 / 助手
- 2006年～現在 株式会社東京文化財センター設立
- 2017年～2022年 東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科 / 教授
- 2022年～現在 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター / 客員研究員

子供時代の話を教えてください

10歳まで京都（丹後地方）の自然が豊かな場所です。友人とドッジボール・缶蹴り・魚釣り・野球（稲刈り後の田んぼが野球場）などで毎日が過ぎていきました。また時折、大好きだった祖母とおにぎりを持って山に入り、春なら蕨や筍、秋なら柿や栗、自然薯などの採取に出かけたことを思い出します。笑っちゃうくらい無邪気な田舎の子供だったと思います。



亡失箇所の補作作業

どのような経緯で修復家になったのでしょうか

修復家になったきっかけは大学院（文化財保存学専攻）への進学が大きいです。進学当初の目的は修復を学ぶためではなく日本美術の古典技法に興味を持っていました。学部では彫刻科を専攻していたことから古典技法を習得して今後の制作に活かそうと思っていました。しかし、2年間で学べるようなものではない事に気づきました。修了研究では鎌倉時代の大仏師・快慶の大日如来を模刻研究したのですが、快慶さんに「簡単に学べると思っない紙めるなよ!!」って頭をペシッ!と叩かれたような気持ちでした。この研究を機にどんな古典彫刻にのめり込んでいきます。

また博士課程では研究室に運び込まれる修復物件や調査にも参加させていただき、修復の考え方や技術を学ぶことができました。この頃から、私の心を豊かにしてくれている文化財を次の世代にとい

う気持ち芽生えていきました。

このような経緯があり、現在では修復家として仏像彫刻家として活動することができています。

仕事の内容や、やりがいを教えてください

お仕事は寺社からの依頼が中心になります。美術館・博物館・個人の方、もちろん文化財保存支援機構さんからお仕事させていただけます。やりがいとしては先人たちの時を超えた会話ができることです（笑）。

どういうことかと言いますと、文化財の修復をする上ではまず、対象の情報を的確に把握しなければなりません。損傷状況の把握はもちろんですが、何の素材で制作されているか、

どのような技法が用いられているか判断した上で修復方針を立て、実際の処置に入ります。

私にとって各時代の造形性に触れ、先人の思いや卓越した技術を目の当たりにすることはこの上ない喜びです。また修復過程においても当時の工人たちの知恵や技術が垣間見られることがあり、ワクワクドキドキ痺れちゃう時があります。

過去の人々との会話を通じて、現代を生きる我々に大切なものを教えてくれるような気がしています。

どのような修復家をめざしたいですか？

私の場合、修復対象が作品というよりは、信仰対象（仏像）であることが多いのです。信仰対象は文化財でありながら現在進行形でその役割を担っています。歴代の御住職をはじめ、檀家さんや地域の人々が大切に守り継承しています。修復家はそれの人たちのお手伝いをするのであり、良い形で継承できる最善の方法とは何であるかということに念頭に置き、修復方針・処置を実施しなければならぬと考えます。

例えば、安置される場所や保存環

上 | 矧ぎ目周辺の剥落止め作業

下 | 面部矧ぎ目の補修（整形）作業



境も含めコーディネートする役割が必要だと感じます。そのためには文化財がこれまで辿ってきた歴史的背景をしっかりと理解し、日々、知識と技術の研鑽を怠らず精進したいと考えています。

印象に残っているエピソードを教えてください

工房を立ち上げてまもない頃のエピソードを思い出します。不動明王像の修復でしたが大変痛みが激しく、自立するのもよつとの状態でした。この不動明王像は古様を示し、長い歴史を感じる御像でした。まず修復前調査としてX線撮影を実施しました。すると仏像の体に200本以上の釘・鏝かぎが打ち込まれていることが判明しました。「なんでこんなことに……」と痛々しく悲しい気持ちになったことを覚えています。

修復では全解体修復といって一旦部材をバラバラにした上で構造強化するとても時間を要するものでした。解体の際は打ち込まれた釘・鏝を全て除去しました。すると形状が4種類に分類することができ、これはそれぞれ違う時代の修理の際に打ち込まれたものなのだとわかりました。各時代の人々がなんとかして継承したい想いの集積が200本以上にもなったのだ

と、捉えることができました。最終的に釘・鏝は腐食が激しく、新たに鍛冶屋に特別に打ってもらった鏝18本で現在は固定されています。人々の思いが時を超え、私に引き継がれた責任感を感じました。

あなたのバイブルは何ですか？

修復では根を詰めた時間を要する場面が多々あります。そのため体力の疲労やストレスも溜まるこ

ともあります。そんな時、私には次にご紹介するリラックス本があります。大型本なのですが朝日新聞社から出ている『正倉院宝物 北倉・中倉・南倉（3冊揃）』です。工房を立ち上げたまもない頃、古本で購入しました。少し高額本ですが、私にとってのお気に入りの本になります。

奈良時代の美術品（絵画・金工・木工・ガラス・漆工・陶芸など）

で天平文化の最高傑作が載っています。読むのではなく観る本ですね。綺麗ななあ、いいなあ、すごいなあ、と何回見ても心奪われます。気がつくといつの間にか心がリフレッシュです。笑。

いや〜1200年以上の時を超え、私たちの時代まで伝えてくれた人々に本当に感謝です。

上 | 蓮弁の仮止め作業 下 | 蓮台の解体作業

